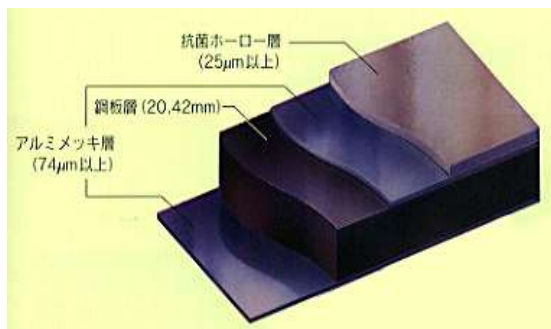


■ 抗菌ほうろう

ほうろうはガラスの表面をもつことから、本来洗浄性にすぐれています。それに抗菌、防かび機能を付与したほうろうが最近の清潔志向にもささえられて出現しました。抗菌、防かび性とは、細菌や菌類の活動を抑制する効果を意味します。抗菌効果を有する成分としては、銀、銅、亜鉛、錫などが考えられています。ほうろうでは、主に銀が利用されています。

銀イオンは、微生物細胞中の活性酵素と結合しやすく、その活動を奪うとされ、釉薬中に銀イオンが安定に存在し、水分の存在により極微量ずつ溶解することで抗菌性を発揮します。銀などの抗菌成分を釉薬に添加する方法は、触媒活性担体にイオン交換するか担持させた抗菌剤を釉薬中に添加混合するか、フリットに銀などを溶解する方法があります。抗菌ほうろうは、キッチン用品や病院、食品工場の内壁材などに利用され用途が拡大しつつあります。病院などの利用方法の延長線上には、環境内の極微量成分、例えば環境ホルモンなどの研究あるいは、ウイルスや細菌フリー空間を確保するために不可欠な「環境クリーンルーム」などに、ほうろうが最適な材料であることが浮かんできます。

アルミメッキ鋼板を用いた抗菌ほうろうの例



構成



病院での使用例